

- 学習指導要領に示された目標を踏まえて、評価の観点及びその趣旨が作成されている。
- 「知識・技能」について、原則、「A表現」では「知識」・「技能」を分けて設定する。
- 「知識・技能」について、「B鑑賞」では「技能」を設定しない。

評価の観点・趣旨(小学校 音楽)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> • 曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解している。(※1) 知識 • 表したい音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌ったり、演奏したり、音楽をつくったりしている。(※2) 技能 	<ul style="list-style-type: none"> • 音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、どのように表すかについて思いや意図をもったり、曲や演奏のよさなどを見だし、音楽を味わって聴いたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> • 音や音楽に親しむことができるよう、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

- 知識の習得に関すること(※1)と技能の習得に関すること(※2)とに分けて示している。これは、学習指導要領の指導事項を、知識に関する資質・能力(事項イ)と技能に関する資質・能力(事項ウ)とに分けて示していること、技能に関する資質・能力を「A表現」のみに示していることなどを踏まえたものである。
- また、「A表現」の題材の指導に当たっては、「知識」と「技能」の評価場面や評価方法が異なることが考えられる。したがって、「A表現」の題材では、評価規準の作成においても「知識」と「技能」とに分けて設定することを原則とする。なお「B鑑賞」の題材では、※2の趣旨に対応する評価規準は設定しない。

- 学習指導要領に示された目標を踏まえて、評価の観点及びその趣旨が作成されている。
- 「知識・技能」について、原則、「A表現」では「知識」・「技能」を分けて設定する。
- 「知識・技能」について、「B鑑賞」では「技能」を設定しない。

評価の観点・趣旨(中学校 音楽)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> • 曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。(※1) 知識 • 創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。(※2) 技能 	<ul style="list-style-type: none"> • 音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて思いや意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴いたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> • 音や音楽、音楽文化に親しむことができるよう、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

- 知識の習得に関すること(※1)と技能の習得に関すること(※2)とに分けて示している。これは、学習指導要領の指導事項を、知識に関する資質・能力(事項イ)と技能に関する資質・能力(事項ウ)とに分けて示していること、技能に関する資質・能力を「A表現」のみに示していることなどを踏まえたものである。
- また、「A表現」の題材の指導に当たっては、「知識」と「技能」の評価場面や評価方法が異なることが考えられる。したがって、「A表現」の題材では、評価規準の作成においても「知識」と「技能」とに分けて設定することを原則とする。なお「B鑑賞」の題材では、※2の趣旨に対応する評価規準は設定しない。

■ 「知識・技能」 → 指導事項を選択，挿入し，評価規準を作成していく。

題材の評価規準の基本構造(小学校 第1学年及び第2学年「A表現 歌唱」の例)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 曲想と音楽の構造との関わり，曲想と歌詞の表す情景や気持ちとの関わりについて気付いている。 <p>↑ イ 曲想と音楽の構造との関わり，曲想と歌詞の表す情景や気持ちとの関わりについて気付くこと。</p> <ul style="list-style-type: none"> 思いに合った表現をするために必要な，[事項ウの(ア)，(イ)，(ウ)](いずれかを選択)を身に付けて歌っている。 <p>↑ ウ 思いに合った表現をするために必要な次の(ア)から(ウ)までの技能を身に付けること。 (ア)範唱を聴いて歌ったり，階名で模唱したり暗唱したりする技能 (イ)自分の歌声及び発音に気を付けて歌う技能 (ウ)互いの歌声や伴奏を聴いて，声を合わせて歌う技能</p>	<ul style="list-style-type: none"> [音色，リズム，速度，旋律，強弱，音の重なり，和音の響き，音階，調，拍，フレーズ，反復，呼びかけとこたえ，変化，音楽の縦と横との関係など](その題材の学習において児童の思考・判断のよりどころとなる，主な音楽を形づくっている要素を適切に選択)を聴き取り，それらの働きが生み出すよさや面白さ，美しさを感じ取りながら，聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え，曲想を感じ取って表現を工夫し，どのように歌うかについて思いをもっている。 	<ul style="list-style-type: none"> [その題材の学習に粘り強く取り組んだり，自らの学習を調整しようとする意思をもったりできるようにするために必要となる，取り扱う教材曲の特徴や学習内容など，興味・関心をもたせたい事柄]に興味をもち，音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。 <p>↑ ア 歌唱表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら，曲想を感じ取って表現を工夫し，どのように歌うかについて思いをもつこと。</p>

➤ 下線部は，指導事項の文言を「評価の観点の趣旨」にならって置き換えた部分。

➤ ゴシック体の[]内は，指導事項や「評価の観点の趣旨」の文言を，題材で扱う内容に合わせて適切に選択するなどして置き換えたり，挿入したりする部分。

■ 「知識・技能」 → 指導事項を選択, 挿入し, 評価規準を作成していく。

題材の評価規準の基本構造(中学校 第1学年「A表現 歌唱」の例)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・ [事項イの(ア)又は(イ)のいずれか又は両方]について理解している。 <small>↑</small> <small>イ 次の(ア)及び(イ)について理解すること。 (ア)曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わり (イ)声の音色や響き及び言葉の特性と曲種に応じた発声との関わり</small> ・ [事項ウの(ア)又は(イ)のいずれか又は両方]を身に付け, 歌唱で表している。 <small>↑</small> <small>ウ 次の(ア)及び(イ)の技能を身に付けること。 (ア)創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声, 言葉の発音, 身体の使い方などの技能 (イ)創意工夫を生かし, 全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能</small> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ [音色, リズム, 速度, 旋律, テクスチャ, 強弱, 形式, 構成などのうち, その題材の学習において生徒の思考・判断のよりどころとなるものとして適切に選択した主な音楽を形づくっている要素を]を知覚し, それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら, 知覚したことと感受したこととの関わりについて考え, どのように歌うかについて思いや意図をもっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ [その題材の学習に粘り強く取り組んだり, 自らの学習を調整しようとする意思をもったりできるようにするために必要な, 扱う教材曲や曲種等の特徴, 学習内容など, 生徒に興味・関心をもたせたい事柄]に関心を持ち, 音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。 <small>↑</small> <small>ア 歌唱表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら, 歌唱表現を創意工夫すること。</small>

➤ ゴシック体の[]内は, 題材で扱う学習内容に合わせて適切に選択した指導事項に置き換えたり, 適切な文言を挿入したりする部分。

■ 「思判表」 → 思考・判断のよりどころとなる要素を選択し、評価規準を作成していく。

題材の評価規準の基本構造(小学校 第1学年及び第2学年「A表現 歌唱」の例)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 曲想と音楽の構造との関わり、曲想と歌詞の表す情景や気持ちとの関わりについて気付いている。 <small>イ 曲想と音楽の構造との関わり、曲想と歌詞の表す情景や気持ちとの関わりについて気付くこと。</small> 思いに合った表現をするために必要な、[事項ウの(ア)、(イ)、(ウ)](いずれかを選択)を身に付けて歌っている。 <small>ウ 思いに合った表現をするために必要な次の(ア)から(ウ)までの技能を身に付けること。 (ア)範唱を聴いて歌ったり、階名で模唱したり暗唱したりする技能 (イ)自分の歌声及び発音に気を付けて歌う技能 (ウ)互いの歌声や伴奏を聴いて、声を合わせて歌う技能</small> 	<ul style="list-style-type: none"> [音色, リズム, 速度, 旋律, 強弱, 音の重なり, 和音の響き, 音階, 調, 拍, フレーズ, 反復, 呼びかけとこたえ, 変化, 音楽の縦と横との関係など](その題材の学習において児童の思考・判断のよりどころとなる, 主な音楽を形づくっている要素を適切に選択)を聴き取り, それらの働きが生み出すよさや面白さ, 美しさを感じ取りながら, 聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え, 曲想を感じ取って表現を工夫し, どのように歌うかについて思いをもっている。 	<ul style="list-style-type: none"> [その題材の学習に粘り強く取り組んだり, 自らの学習を調整しようとする意思をもったりできるようにするために必要となる, 取り扱う教材曲の特徴や学習内容など, 興味・関心をもたせたい事柄]に興味をもち, 音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。 <small>ア 歌唱表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら, 曲想を感じ取って表現を工夫し, どのように歌うかについて思いをもつこと。</small>

- 下線部は、指導事項の文言を「評価の観点の趣旨」にならって置き換えた部分。
- ゴシック体の[]内は、指導事項や「評価の観点の趣旨」の文言を、題材で扱う内容に合わせて適切に選択するなどして置き換えたり、挿入したりする部分。

■ 「思判表」 → 思考・判断のよりどころとなる要素を選択し、評価規準を作成していく。

題材の評価規準の基本構造(中学校 第1学年「A表現 歌唱」の例)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> • [事項イの(ア)又は(イ)のいずれか又は両方]について理解している。 <small>↑</small> <small>イ 次の(ア)及び(イ)について理解すること。 (ア)曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わり (イ)声の音色や響き及び言葉の特性と曲種に応じた発声との関わり。</small> • [事項ウの(ア)又は(イ)のいずれか又は両方]を身に付け、歌唱で表している。 <small>↑</small> <small>ウ 次の(ア)及び(イ)の技能を身に付けること。 (ア)創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能 (イ)創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能</small> 	<ul style="list-style-type: none"> • [音色, リズム, 速度, 旋律, テクスチャ, 強弱, 形式, 構成などのうち, その題材の学習において生徒の思考・判断のよりどころとなるものとして適切に選択した主な音楽を形づくっている要素を]を知覚し, それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら, 知覚したことと感受したこととの関わりについて考え, どのように歌うかについて思いや意図をもっている。 	<ul style="list-style-type: none"> • [その題材の学習に粘り強く取り組んだり, 自らの学習を調整しようとする意思をもったりできるようにするために必要な, 扱う教材曲や曲種等の特徴, 学習内容など, 生徒に興味・関心をもたせたい事柄]に関心を持ち, 音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。 <small>↑</small> <small>ア 歌唱表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら, 歌唱表現を創意工夫すること。</small>

➤ ゴシック体の[]内は、題材で扱う学習内容に合わせて適切に選択した指導事項に置き換えたり、適切な文言を挿入したりする部分。

■ 「主体態度」→ 児童に興味・関心をもたせたい事柄を記載し、評価規準を作成していく。

題材の評価規準の基本構造(小学校 第1学年及び第2学年「A表現 歌唱」の例)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 曲想と音楽の構造との関わり、曲想と歌詞の表す情景や気持ちとの関わりについて気付いている。 <p>↑</p> <p>イ 曲想と音楽の構造との関わり、曲想と歌詞の表す情景や気持ちとの関わりについて気付くこと。</p> <ul style="list-style-type: none"> 思いに合った表現をするために必要な、[事項ウの(ア)、(イ)、(ウ)](いずれかを選択)を身に付けて歌っている。 <p>↑</p> <p>ウ 思いに合った表現をするために必要な次の(ア)から(ウ)までの技能を身に付けること。 (ア)範唱を聴いて歌ったり、階名で模唱したり暗唱したりする技能 (イ)自分の歌声及び発音に気を付けて歌う技能 (ウ)互いの歌声や伴奏を聴いて、声を合わせて歌う技能</p>	<ul style="list-style-type: none"> [音色, リズム, 速度, 旋律, 強弱, 音の重なり, 和音の響き, 音階, 調, 拍, フレーズ, 反復, 呼びかけとこたえ, 変化, 音楽の縦と横との関係など](その題材の学習において児童の思考・判断のよりどころとなる, 主な音楽を形づくっている要素を適切に選択)を聴き取り, それらの働きが生み出すよさや面白さ, 美しさを感じ取りながら, 聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え, 曲想を感じ取って表現を工夫し, どのように歌うかについて思いをもっている。 	<ul style="list-style-type: none"> [その題材の学習に粘り強く取り組んだり, 自らの学習を調整しようとする意思をもったりできるようにするために必要となる, 取り扱う教材曲の特徴や学習内容など, 興味・関心をもたせたい事柄]に興味をもち, 音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。 <p>↑</p> <p>ア 歌唱表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら, 曲想を感じ取って表現を工夫し, どのように歌うかについて思いをもつこと。</p>

- 下線部は、指導事項の文言を「評価の観点の趣旨」にならって置き換えた部分。
- ゴシック体の[]内は、指導事項や「評価の観点の趣旨」の文言を、題材で扱う内容に合わせて適切に選択するなどして置き換えたり、挿入したりする部分。

■ 「主体態度」→ 生徒に興味・関心をもたせたい事柄を記載し、評価規準を作成していく。

題材の評価規準の基本構造(中学校 第1学年「A表現 歌唱」の例)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> • [事項イの(ア)又は(イ)のいずれか又は両方]について理解している。 <small>↑</small> <small>イ 次の(ア)及び(イ)について理解すること。 (ア)曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わり (イ)声の音色や響き及び言葉の特性と曲種に応じた発声との関わり。</small> • [事項ウの(ア)又は(イ)のいずれか又は両方]を身に付け、歌唱で表している。 <small>↑</small> <small>ウ 次の(ア)及び(イ)の技能を身に付けること。 (ア)創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能 (イ)創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能</small> 	<ul style="list-style-type: none"> • [音色, リズム, 速度, 旋律, テクスチャ, 強弱, 形式, 構成などのうち, その題材の学習において生徒の思考・判断のよりどころとなるものとして適切に選択した主な音楽を形づくっている要素を]を知覚し, それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら, 知覚したことと感受したこととの関わりについて考え, どのように歌うかについて思いや意図をもっている。 	<ul style="list-style-type: none"> • [その題材の学習に粘り強く取り組んだり, 自らの学習を調整しようとする意思をもったりできるようにするために必要な, 扱う教材曲や曲種等の特徴, 学習内容など, 生徒に興味・関心をもたせたい事柄]に関心を持ち, 音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。 <small>↑</small> <small>ア 歌唱表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら, 歌唱表現を創意工夫すること。</small>

➤ ゴシック体の[]内は、題材で扱う学習内容に合わせて適切に選択した指導事項に置き換えたり、適切な文言を挿入したりする部分。

■ 扱わない内容は削除して評価規準を作成していく。

題材の評価規準(例) 小学校 第1学年及び第2学年「A表現 歌唱」

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>知 曲想と音楽の構造との関わり，曲想と歌詞の表す情景や気持ちとの関わりについて気付いている。</p>	<p>思 旋律、呼びかけとこたえ、を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲想を感じ取って表現を工夫し、どのように歌うかについて思いをもっている。</p>	<p>態 呼びかけ合って歌う表現に興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。</p>
<p>技 思いに合った表現をするために必要な、互いの歌声や伴奏を聴いて、声を合わせて歌う技能を身に付けて歌っている。</p>	<p>➤ 「音楽を形づくっている要素」は、その題材の学習において児童の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素を適切に選択して記載する。</p>	<p>➤ 文頭に、その題材の学習に粘り強く取り組んだり、自らの学習に調整しようとする意思をもったりできるようにするために必要な、取り扱う教材曲の特徴や学習内容など、児童に興味・関心をもたせたい事柄を記載する。</p>
<p>➤ 指導事項に示している内容のうち、本題材の学習で扱わない部分は削除する。</p>		

■ 扱わない内容は削除して評価規準を作成していく。

題材の評価規準(例) 中学校 第1学年「A表現 歌唱」事項ア, イ(ア), ウ(イ)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>知 曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解している。</p>	<p>思 音色, 速度, 旋律を知覚し, それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら, 知覚したことと, 感受したこととの関わりについて考え, どのように歌うかについて思いや意図をもっている。</p>	<p>態 旋律と言葉との関係に関心をもち, 音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。</p>
<p>技 創意工夫を生かし, 全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能を身に付け, 歌唱で表している。</p>		

➤ 指導事項に示している内容のうち, 本題材の学習で扱わない部分は削除する。

➤ 「音楽を形づくっている要素」は, その題材の学習において生徒の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素を適切に選択して記載する。

➤ 文頭に, その題材の学習に粘り強く取り組んだり, 自らの学習に調整しようとする意思をもったりできるようにするために必要な, 取り扱う教材曲の特徴や学習内容など, 生徒に興味・関心をもたせたい事柄を記載する。

■ 「知識・技能」の評価を統合することもあり得るが、その場合は互いの関連性が高いもの同士に限られる。例：小学校 器楽イ(イ)とウ(イ)など

小学校 第4学年「A表現 歌唱・器楽」

題材名「曲のとくちょうをとらえて表現しよう」

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>技① 思いや意図に合った音楽表現をするために必要な、呼吸に気を付けて、自然で無理のない歌い方で歌う技能を身に付けて歌っている。(歌唱)</p> <p>知② 曲想と音楽の構造との関わりについて気付いている。(歌唱・器楽)</p> <p>知技③ リコーダーの音色や響きと演奏の仕方との関わりについて気付くとともに、思いや意図に合った表現をするために必要な、音色や響きに気を付けてリコーダーを演奏する技能を身に付けて演奏している。(器楽)</p> <p>➤ A表現の器楽の事項イ(イ)及び事項ウ(イ)について、これらを統合した評価規準として設定している。</p>	<p>・ <u>旋律、フレーズ、反復、変化を聴き取り</u>、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。(歌唱)</p> <p>思② <u>旋律、フレーズ、反復、変化を聴き取り</u>、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。(器楽)</p>	<p>・ <u>曲の特徴を捉えて表現する</u>学習に興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱や器楽の学習活動に取り組もうとしている。(歌唱・器楽)</p> <p>➤ 知識の評価を統合する場合としては、対応する事項の内容が共通するもの同士が考えられる。</p> <p>➤ また、評価場面や評価方法が共通する知識と技能の評価及び技能同士の評価を統合することが考えられるが、知識と技能の評価を統合することは、器楽イ(イ)とウ(イ)のように関連性が高いもの同士に限られる。</p>

- 思考・判断のよりどころとなる要素は、精選して設定する。
- 題材名がよくできていると、「主体的に学習に取り組む態度」で使用できる。

中学校 第2学年「A表現 歌唱」

題材名
「歌詞が表す情景や心情を思い浮かべ、
曲想を味わいながら表現を工夫して歌おう」

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>知 「荒城の月」, 「早春賦」の曲想と音楽の構造や歌詞の内容及び曲の背景との関わりを理解している。</p> <p>技 創意工夫を生かした表現で「早春賦」を歌うために必要な発声, 言葉の発音, 身体の使い方などの技能を身に付け, 歌唱で表している。</p>	<p>思 「荒城の月」, 「早春賦」のリズム, 速度, 旋律, 強弱を知覚し, それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら, 知覚したことと感受したこととの関わりについて考え, 「早春賦」にふさわしい歌唱表現としてどのように表すかについて思いや意図をもっている。</p>	<p>態 「荒城の月」, 「早春賦」の歌詞が表す情景や心情及び曲の表情や味わいに関心を持ち, 音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。</p>

- 「教材名」を挿入。
- 本題材の学習で扱わない部分は削除。

- 思考・判断のよりどころとなる要素は絞り込む。
- 楽曲で取り扱える要素を記入するものではない。

- 生徒に興味・関心をもたせたい事柄を記載する。

ポイント8(小)

例小歌唱

例中歌唱

例小歌器

例中歌唱

位置付け

- 評価の回数は、記録に残す場面を精選し、1単位時間当たり「0～2回」とした。
 - ・ 「評価をしなくてよい」という時間があるわけではない。
 - ・ 「毎時間40人分の評価を実施する必要はない」ということ。 ※より現実的に！

評価の位置付けと回数

➤ 全員の学習状況を記録に残す場面

題材全体の学習指導			評価の位置づけ			
次	時	主な学習内容	評価の観点と主な評価の対象			評価の回数
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
一	1	<ul style="list-style-type: none"> 「とんび」の歌詞の表す様子や旋律の反復など曲の特徴を捉える。 「とんび」の曲の特徴を捉えて表現を工夫する。 				0
	2	<ul style="list-style-type: none"> 「とんび」の曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて気付く。 「とんび」の曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて気付いたことを生かして表現を工夫し、思いや意図をもつ。 	技① 知②	思①		3
二	3	<ul style="list-style-type: none"> 「エーデルワイス」の特徴を捉えてリコーダーで旋律を演奏する。 				0
	4	<ul style="list-style-type: none"> 「エーデルワイス」の特徴を捉えてリコーダーの表現を工夫する。 	知②	思②		2
	5	<ul style="list-style-type: none"> 「エーデルワイス」の特徴を捉えた表現を工夫し、思いや意図に合った表現をするために必要な、リコーダーの演奏の仕方に関する知識と技能を身に付けてリコーダーを演奏する。 	技③		態①	2

ポイント8(中)

例小歌唱

例中歌唱

例小歌器

例中歌唱

位置付け

- 評価の回数は、記録に残す場面を精選し、1単位時間当たり「0～2回」とした。
 - ・ 「評価をしなくてよい」という時間があるわけではない。
 - ・ 「毎時間40人分の評価を実施する必要はない」ということ。 ※より現実的に！

評価の位置付けと回数

➤ 全員の学習状況を記録に残す場面

題材全体の学習指導		評価の位置づけ			
時	主な学習内容	評価の観点と主な評価の対象			評価の回数
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
1	● 「荒城の月」「早春賦」の歌詞の内容、曲想などに関心をもつ。				0
2	● リズム、速度、旋律、強弱を知覚し、「荒城の月」を歌唱する。		↓		0
3	● 前時の学習を生かして「早春賦」の音楽表現を創意工夫する。	知 曲想と音楽の構造等との関わり の理解	思 要素の知覚・感受 に基づく歌唱表現 の創意工夫	↓	2
4	● 曲にふさわしい表現で主体的に「早春賦」を歌唱する。 ● 題材全体の学習の振り返りをする。	技 創意工夫を生かして歌う技能		態 学習活動に対する主体的・協働的な取組	2

まとめ

<評価規準の設定の手順>

- ① 該当学年の評価の観点と趣旨を確認。
- ② 本題材で扱う学習指導要領の内容を明確にする。
- ③ 本題材で扱う学習指導要領の内容に置き換える。

① 評価の観点と趣旨を確認

中学校第2学年及び第3学年 ←

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> • 曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。 • 創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。 	<ul style="list-style-type: none"> • 音楽を形づけている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したものと感受したものとに関わりについて考え、どのように表すかについて思いや意図をもったり、音楽を評論しながらよさや美しさを味わって聴いたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> • 音や音楽、音楽文化に親しむことができるよう、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

② 指導内容を明確にする

■ 中学校第2学年及び第3学年 A表現（1）歌唱

ア 歌唱表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫すること。
イ 次の(ア)及び(イ)について理解すること。

(ア) 曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わり

ウ 次の(ア)及び(イ)の技能を身に付けること。

(ア) 創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能
〔共通事項〕

本題材において思考・判断のよりどころとなる要素は「リズム、速度、旋律、強弱」

③ 扱う内容に置き換える

- 教材名を挿入。
- 学習で扱わない部分を削除。
- 思考・判断のよりどころとなる要素を選択して記載。
- 興味・関心をもたせたい事柄を記載。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> • 「荒城の月」、「早春賦」の曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりを理解している。 • 創意工夫を生かした表現で「早春賦」を歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付け、歌唱で表している。 	<ul style="list-style-type: none"> • 「荒城の月」、「早春賦」のリズム、速度、旋律、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したものと感受したものとに関わりについて考え、「早春賦」にふさわしい歌唱表現としてどのように表すかについて思いや意図をもっている。 	<ul style="list-style-type: none"> • 「荒城の月」、「早春賦」の歌詞が表す情景や心情及び曲の表情や味わいに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。